

令和6年度学校評価報告書

令和7年（2025年）3月27日

北海道教育委員会教育長 様

北海道岩見沢農業高等学校長 野 村 博 之

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 個に応じた指導により、自律し社会で生きていく上で必要な学力を身に付けさせる。
- (2) 生徒の安全を確保した上で、自主的・自立的な活動を推進し協働する力を育成する。
- (3) グローバルな視野で人や社会と関わることができる、コミュニケーション力を育成する。
- (4) 地域農業や産業を担うために、困難に直面して改善できるしなやかな心身を育成する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	○ PTA活動について、総会をはじめすべて対面開催することができた。特にPTAの学校祭の模擬店参加は、本校の教育活動に対する保護者の関心を喚起するきっかけとなった。 ○ 体験入学をはじめ、生徒募集に係る募集方法を電子化したことにより、効率的に募集することができた。	○ 生徒の活躍を保護者に積極的に知らせるためには、安心メール等を活用してホームページの閲覧を促すなどの工夫が必要である。 ○ 令和7年度入学者選抜試験に係り、畜産科学科への志願者増加については、教育課程の中で新しく愛玩動物を取り扱うことへの期待の表れと言えるのではないかな。
改善方策	○ 生徒募集委員会と連携し、より充実した生徒募集の在り方を検討する。 ○ 本校の学習活動の成果を幅広く周知するため、学校ホームページの積極的な更新を行うとともに、更新時には保護者に対し案内する。 ○ 積極的な保護者のPTA活動への参加を促すよう、取組の充実を図る。 ○ 生徒募集に係り、ホームページ、スクールガイド、ポスター等の内容を充実させるとともに、中学校訪問などによる積極的な情報の発信を行う。	
学習指導	○ 年度当初に学習評価に係る校内研修会を実施し、観点別評価について改めて全教職員で確認することができたが、各教科において評価規準を明確にし、統一した見解のもと適切に実施する必要がある。 ○ 授業規律に係る生徒の意識醸成のため、全校集会で啓発を行った。後期には授業強化週間を設けるとともに、授業評価アンケートを実施したが、各教科における更なる授業改善を行う必要がある。 ○ 個別最適な学びを実現するために、不登校生徒に対するオンライン授業を実施することができたが、学校復帰に向けた基準の明確化や体制整備等を行う必要がある。	○ 生徒の学力向上に向けた授業改善の推進及び授業規律の徹底を望む。 ○ 大学進学者が多数いることから、進学後の学習を見据えた基礎学力の底上げを望む。 ○ AＯ入試で進学する生徒の基礎学力を定着させる指導を望む。 ○ 教室の環境美化を望む。 ○ 不登校生徒に対するオンライン授業については、時代のニーズに対応しており今後も継続を望む。
改善方策	○ 各教科の授業内容及び評価規準について、シラバスにより生徒及び保護者の理解を促す。 ○ キャリアガイダンス部と連携し、主要5教科の放課後講習の実施や習熟度別の学習等についての取組を推進する。 ○ 本校の教育目標の実現に向け、授業評価アンケートを前後期に実施し、アンケート結果を活用しながら授業改善及び学習内容の充実を図る。	

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
生徒指導	○ いじめと疑われる事案については、いじめ対策委員会を速やかに開催したことにより、組織的に素早く対応することができた。 ○ 前期に教育相談週間を設けたことで、生徒理解に一定の成果を上げることができた。 ○ 例年、自動車運転免許取得希望者に対し、保護者説明会を実施していたが、今年度は三者面談時に個別に説明することにより、指導を徹底することができた。 ○ 自転車用ヘルメット着用については、努力義務とされているが、生徒の安全確保のため積極的な着用に向け引き続き啓発していく必要がある。	○ 本校の取組に対する保護者の理解が十分ではないというアンケート結果を踏まえ、学校と家庭が連携して生徒の基本的な生活習慣等を確立させる協働体制づくりが進むよう工夫・改善を図ることを望む。 ○ 生徒の身だしなみ指導の校内で統一した指導など、実施方法について検討を望む。
改善方策	○ いじめを含む問題行動及び反社会的行為を防止するためには、引き続き生徒だけではなく保護者に対しても啓発を行い、理解を促していく。 ○ 部活動等への興味・関心を高める取組を充実させ、により加入率向上を図るとともに、教職員の負担軽減等の観点から、活動状況等を把握し部活動の精選を行う。	
進路指導	○ 今年度の3年生の主な進路実績は、大学短大併せて30名、専門学校54名、就職106名うち、公立大学1名、公務員22名であり、進学希望者及び就職希望者ともに、決定率は100%となった。 ○ 生徒の自己実現を目指し、早い段階から各学年に進路に関する情報を提供するなどして、学校全体で進路実現に対する意識の醸成を図る必要がある。	○ 生徒の学校生活を充実したものにするためには、生徒が何を求めて入学してきているのか把握するとともに、1年次から卒業後の進路を見据えたキャリア指導を望む。
改善方策	○ 4年生大学の一般受験等を見据え、教務部と連携して基礎学力向上を目指す取組を推進する。 ○ 外部機関主催の進路ガイダンスを精選し、生徒の目指す進路に沿ったガイダンスに参加させる工夫や各学年における効果的な活用を行う。	
農業教育	○ 1年次の専門授業を増加し、技能検定を中心に実践力を育成することができた。 ○ 地域と連携し、科学的な視点に立った学習を通して、課題解決能力を醸成することができた。 ○ 地域や外部機関との連携により、講演会や研修を実施することができ、視野を広げさせることができた。 ○ バス研修等による地域農業や関連産業の視察の実施により、農業経営に対する理解を深めさせるとともに自らの進路について考えさせる契機とすることができた。	○ DXハイスクール推進事業に係り、本校の特性を生かした農業教育の一層の充実を望む。
改善方策	○ アグリマイスター顕彰制度については、学科によって合格率及び資格取得率に差が生じているため、進路目標に応じた資格取得の意義を理解させる。 ○ 全学科を通して合格率が低下しているため、農業教育を主体的に取り組ませることを目的とし、web教材を活用するなどして家庭学習や学習環境の充実を図る。	
公表方法	○ 会議等での資料配付及び口頭による補足説明 ○ 本校ホームページへの掲載	

3 添付資料

(1) 令和6年度教育計画の評価と課題

(2) 令和6年度学校評価に関するアンケート調査結果（生徒・保護者・教職員）